

4 - 4 中部・東海地方 G.D.P. 高精度トラバース測量結果

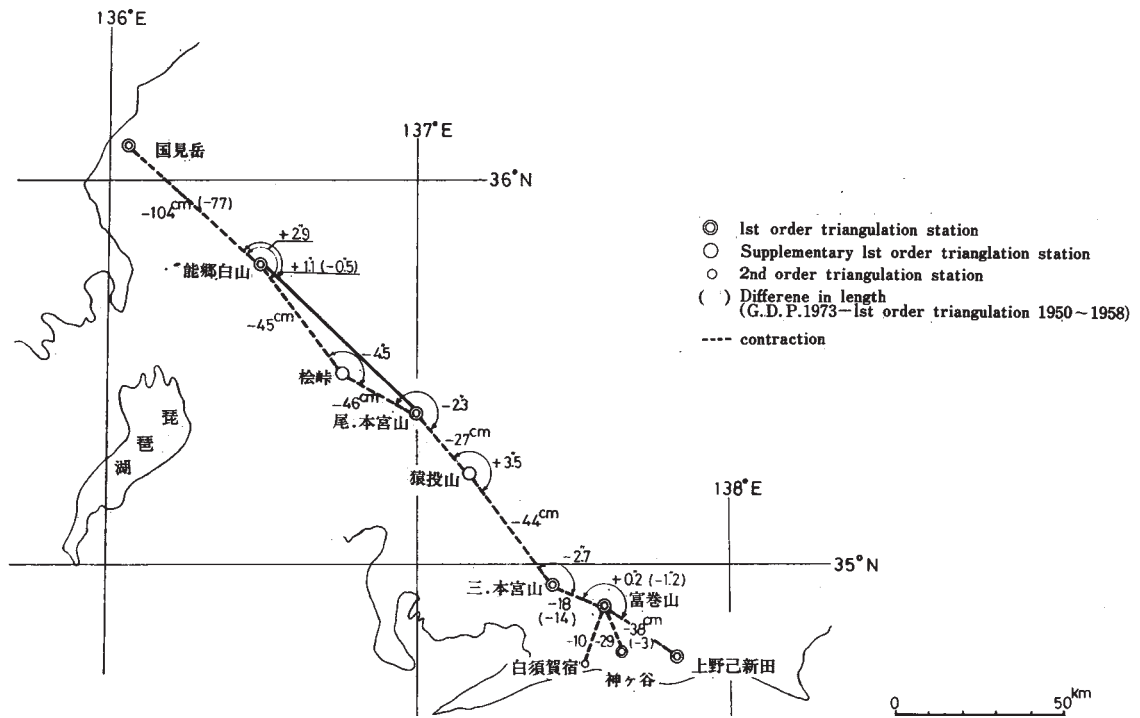
G. D. P. Traverse Survey of High Precision in Chubu and Tokai Districts

国土地理院 測地部
Geodetic Division, Geographical
Survey Institute

1973年8月から10月にかけて、中部・東海地方のG.D.P.高精度トラバース測量が実施されたので、その結果について報告する。

第1図は、トラバース路線の位置およびそれぞれの三角点間の距離の変化と夾角の変化を示す。旧測定は1885～1895年であり、新測定は1973年である。括弧のなかの辺長変化の数字は、1950～1958年と今回の測定との差を示す。各辺ともすべて縮小であり、総路線長230kmに対し3.22mとなる。平均歪速度は 1.6×10^{-7} / year 程度である。この付近の地殻にはたらく主圧力の方向はお、むね東西方向であり、福井より根尾谷を通り南方へぬける断層は左横ずれであるが、第1図中の各三角点間の縮みはこれらの断層運動と調和的なものもそうでないものもある。

第2図は、各辺ごとの辺長の経年変化を示す。3回の測定値のある辺長については、近年歪速度が増大している傾向が認められるが、この事を定量的に確立するには第1回・第2回の三角測量による辺長決定の信頼度を十分検討する必要がある。

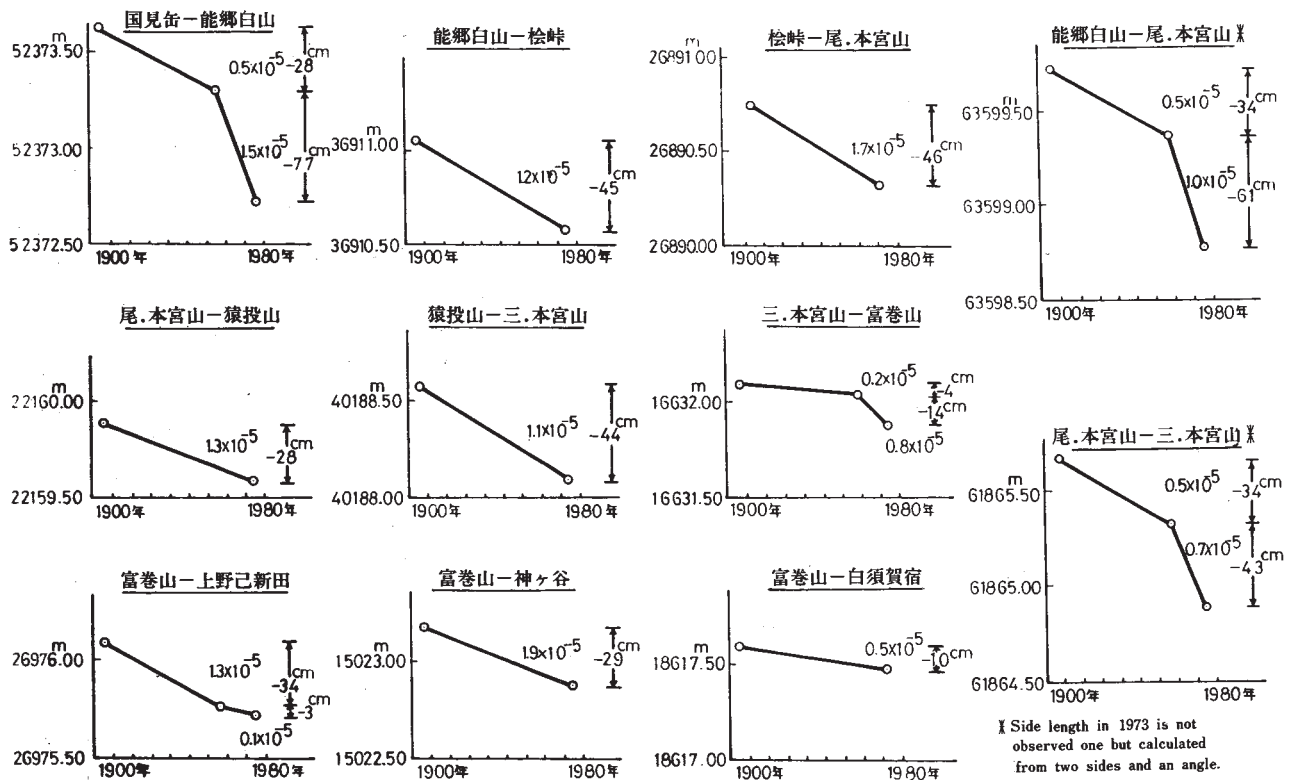


第1図 中部地方の辺長の伸縮および角度の変化

(G. D. P. 高精度トラバース測量, 1973) - (1等三角測量, 1885 - 1895, 1950 - 1958)

Fig. 1 Changes of length and angle in Chubu and Tokai Districts.

Numerals in cm unit show the changes of length between G. D. P traverse survey of high precision, 1973 and the 1st order triangulation 1885 ~ 1895. Numerals in parentheses show the changes between G. D. P. 1973 and the 1st order triangulation 1950 ~ 58.



第2図 各辺長の時間変化

Fig. 2 Changes of each side length